

2022（令和4）年度 事業報告

自 2022（令和4）年4月 1日

至 2023（令和5）年3月31日

I 事業概要

2022（令和4）年度は通常事業の他、重点項目を次のとおり設定し、実施した。

1. 適正飼養の普及啓発を行う指導者の養成のための教材の作成

愛玩動物看護師法の制定に伴い新設された愛護・適正飼養学等の学習内容を、愛玩動物飼養管理士教育へも包含・充実させるための愛玩動物飼養管理士教本・課題報告問題・認定試験問題・スクーリング冊子及び電子スクーリング教材の改訂と制作。

2. 適正飼養の普及啓発を行う指導者の増加対策

- ① 愛玩動物飼養管理士などの指導者養成事業にかかる広報の拡大展開（リスティング・ディスプレイなどのウェブマーケティング、ウェブ広告、新聞・雑誌広告、専門学校への周知、企業タイアップ、インフルエンサーの活用、SNS 公式アカウントの運用等）。
- ② 愛玩動物飼養管理士の活動実績等の顕彰（評価）制度として創設した上級愛玩動物飼養管理士制度の着実な運用。

3. 愛玩動物飼養管理士教育を補完する養成システムの総合的な体系づくりによる適正飼養の普及

- ① ペットオーナー検定の受験者の増加対策及び運用改善。
- ② 各種ペット関連団体を対象にした適正飼養の普及啓発活動推進のための支援。
- ③ 機関誌の内容の充実、図書館等の関係各所への機関誌の配置。
- ④ 実践的飼育手法を教育する愛犬飼育スペシャリスト及び愛猫スペシャリストの事業推進。
- ⑤ ペット共生住宅の整備及び管理運営方法の適正化をするための事業の推進と、ペット共生住宅管理士制度の推進。
- ⑥ 愛玩動物飼養管理士教育を補完するその他の各種教育事業の継続的な検討。
- ⑦ ペットの実践的な飼育手法を広く啓発するための各種書籍・パンフレットの頒布。

- ⑧ ペットの適正飼育に関する理論または実践を解説したデジタル教材を豊富に制作し、これらを HP 上に「学びの部屋」を設置することで閲覧を可能にした。内容は全国民向けをはじめとして、愛玩動物飼養管理士認定登録者、機関誌購読会員と連携団体といった各方面へ適合したもので、継続もしくはリカレント学習を促進するものとした。同時に、行政が実施する適正飼養啓発教育に使用できるよう、これらの電子教材を開示・提供をした。

4. 適正飼養の普及啓発を効果的・効率的に実施可能な組織・体制の整備

- ① 「部課制」による事務局と業務執行理事会を中心とした事務の執行体制の着実な運営。
- ② 各々の地域に密着した適正飼養の普及啓発活動を、全国 21 都道府県に所在する当協会の認定連携団体へ委託して実施。
- ③ 新型コロナウイルス＜COVID-19＞感染症拡大防止対策のマニュアルの改訂と対策実施の徹底をはじめとする着実な BCP（事業継続計画）の推進。
- ④ ICT（情報通信技術）の活用により、受講受験者・養成学校・当協会の 3 者間において当協会の教育事業が効果的・効率的な実施が可能となるシステム構築をし、e-スクーリング・マイデータサイト・※AEES 及び学びの部屋を運用。

※AEES：（Aigandoubutsukyoukai_E_Education_System）当協会が独自開発をした電子的な愛玩動物飼養管理士の授業支援システム。

- ⑤ 協会のコンピューターデータのセキュリティ保持と災害リスク回避のために、従来の社内ストレージ（NAS）から新規採用した「BOX（クラウドストレージ）」を活用。
- ⑥ 人材会社を利用した人員補充のシステム化、及び外注への作業委託によるマンパワーの補完。また、災害時等のリスク分散を図るための体制の整備。

II 事業内容

1. 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

1-1 国及び地方自治体の事業への協力

（1）環境省等の関係行政機関が主催する動物愛護週間行事等への協力

- ① 動物愛護週間ポスターの配布

環境省が作成した動物愛護週間ポスターを愛玩動物飼養管理士養成制度採用校及び認定連携団体等に配布及び掲示依頼をし、動物愛護精神の高揚を図った。

② 中央行事

9月24日（土）・10月1日（土）に環境省、東京都、台東区、本協会を含む動物愛護関連公益法人等によって組織された動物愛護週間中央行事実行委員会の主催で「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」のテーマのもとに、開催をした。

<屋外行事：どうぶつ愛護フェスティバル>

10月1日（土）に東京都台東区上野恩賜公園水上音楽堂において開催した。例年実施していた各テント・ブースについては、来場者の感染対策の安全性が見込めず、中止となり、野外ステージのみ実施した。

また、今年度は初めて公益社団法人日本獣医師会が主催する「動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」と同時開催となった。

場所	内容
野外ステージ	犬のしつけ方教室、アマゾンジャパン×環境省コラボレーションステージ企画、身体障害者補助犬のデモンストレーション（日本介助犬協会） ※同時開催した動物感謝デーのステージ：知っていますか？獣医師の仕事、猫との暮らし

<屋内行事>

9月24日（土）に台東区生涯学習センターミレニアムホールにおいて、各団体の動物愛護作品の表彰、講演、パネルディスカッションを開催した。昨年度につづき、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無観客での屋内行事をWeb（YouTube）でライブ配信による実施となった。

（2）関係地方自治体の動物愛護センターや保健所等が行う普及啓発事業への協力

今期においては、新型コロナウイルス感染拡大の問題から、地方自治体が実施する講習会等がほとんど開催されなかった。

1-2 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成と教育

(1) 愛玩動物飼養管理士通信教育事業の実績

2級愛玩動物飼養管理士(42期)及び1級愛玩動物飼養管理士(38期)の通信教育を実施した。愛玩動物飼養管理士の新規受講受験申込者総数は13,743名(1級・2級)であり、前年度比で93.7%(926名減少)。因みに、前年度(令和3年度)は、歴代最多の新規受講受験申込者数で14,669名であった。内訳は、一般/個人の新規受講受験申込者数が6,600名で前年度比90.3%(705名減少)、企業の団体新規受講受験申込者数は237名で前年度比123.4%(45名増加)、スクールの団体新規受講受験申込者数は6,906名で前年度比96.3%(266名減少)であった。

級別新規申込者数		申込枠別の新規申込者数と全体の構成比		
申込級	新規申込者数	申込枠	新規申込者数	構成比(%)
1級	2,065(74)	個人申込	6,600 (1,887)	48.0%(71.1%)
2級	11,678(2,580)	団体申込 企業	237(6)	1.7%(0.2%)
準2級	募集停止	団体申込 スクール	6,906(761)	50.3%(28.7%)
計	13,743(2,654)	計	13,743(2,654)	

(カッコ内は夏期申込における新規申込者数)

(2) 2022(令和4)年度認定試験の実施(11月、2月)

11月試験は11月27日(日)、一般会場47会場、独自会場11会場で実施。2月試験は2月26日(日)、一般会場14会場、独自会場5会場で実施した。

また、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策として、試験運営マニュアルを作成の上、受験者及び試験官の安全確保に向けた取り組みとして、試験教室内の収容人数を半減させ、二部制(完全入れ替え制)の実施とした。その実施回数の内訳は、11月試験が167教室において1部2部合計で300回、2月試験が50教室において1部2部合計で86回を実施した。

受験級	受験資格者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
1級	2,380(340)	2,164(283)	1,655(185)	76.5
2級	13,269(3,796)	11,854(3,327)	9,490(2,374)	80.1
合計	15,649(4,136)	14,018(3,610)	11,145(2,559)	79.5

(カッコ内は令和5年2月認定試験の内数)

(3) 愛玩動物飼養管理士養成制度の指定校・採用校、企業との協力

① 学校法人等との協力(指定校・採用校)

愛玩動物飼養管理士養成の新規採用校が3校増えた。結果、愛玩動物飼養管理士養成採用校は114校、このうち愛玩動物飼養管理士養成指定校は29校であった。

＜新規の採用校＞

青森県立三本木農業恵拓高等学校、専門学校セントラルトリミングアカデミー、ビューティドッグスクール

＜参考：既存の指定校＞

沖縄ペットワールド専門学校、学校法人穴吹学園穴吹ビジネス専門学校、学校法人宮崎総合学院宮崎ペットワールド専門学校、河原アイペットワールド専門学校、京都動物専門学校、広島情報ビジネス専門学校、盛岡ペットワールド専門学校、群馬県立勢多農林高等学校、沖縄県立中部農林高等学校、学校法人吉田学園吉田学園動物看護専門学校、学校法人大阪ビジネスカレッジ専門学校、学校法人菅原学園仙台総合ペット専門学校、国際ペットワールド専門学校、専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー、学校法人東京愛犬学園東京愛犬専門学校、学校法人高橋学園札幌どうぶつ専門学校、学校法人孔明学園東北愛犬専門学校、群馬動物専門学校、学校法人工藤学園愛犬美容看護専門学校、専門学校ちば愛犬動物フラワー学園、ナンバペット美容学院、名古屋スクールオブビジネス、専門学校穴吹動物看護カレッジ、学校法人未来学舎専門学校未来ビジネスカレッジ、東京都立園芸高等学校、専門学校岡山ビジネスカレッジ、岡山理科大学附属高等学校、北海道どうぶつ・医療専門学校、兵庫県立農業高等学校

② 企業取りまとめによる受講受験申込

次の10社（新規2社、既存8社）より企業取りまとめによる受講受験申し込みがあった。

＜新規の企業＞

大王製紙株式会社、エイトネス株式会社（現：ねこふく株式会社）

＜既存の企業＞

エコートレーディング株式会社、株式会社 AHB、ジャペル株式会社、株式会社サンデー、西村ジョイ株式会社、有限会社スーマース、株式会社ジョイフルエーカー屯田店、イオン九州株式会社

（４）ペットオーナー検定

飼い主に対する初歩的教育及び愛玩動物飼養管理士への導入教育としての「ペッ

トオーナー検定」を、インターネット上での申込受付、受験として実施した。
受験者は283名（犬コース148名、猫コース31名、犬猫同時受験コース104名）、テキストのみの購入者は39名であった。

なお、ペットオーナー検定受験者283名における協会会員加入者数は27名であった。また、これまでのペットオーナー検定受験者3,416名における愛玩動物飼養管理士への受講受験申込者数は657名であり、19%の導入教育効果が認められた。

（５）ペットの実践的な飼育方法の教育

愛玩動物飼養管理士教育を補完するため、ペットの実践的な飼育方法に関する教育の継続。犬の飼育にあたって必要な実践的な方法を学ぶことができる「愛犬飼育スペシャリスト講座」を引き続き実施し、今年度の申込者数は818名（昨年度1,052名）であった。これまでの申込者数の累計は7,139名で、合格者は4,227名となった。

また、猫の飼育にあたって必要な実践的な方法を学ぶことができる「愛猫飼育スペシャリスト講座」については、今年度の申込者数は901名（昨年度1,079名）であった。これまでの申込者数の累計は2,825名で、合格者は1,668名であった。

なお、上記両講座の受講生の募集や受付、教材の発送などの業務はユーキャンへの委託方式で実施した。

（６）犬と猫との暮らしの教科書

社会全体としての適正飼養の確保及び推進を図るためには、関係する行政はもとよりペット関連産業従事者をはじめ、動物関連学校生、そして一般の飼い主向けに最新で包括的な情報の伝達と教育が重要である。このため、ペット飼育に関する広範な知識・情報を解説できるようにするための書籍として、『犬と猫との暮らしの教科書』（3,080円・税込・送料込み）を発行し、一般・学校向けに頒布した。

今年度の販売数は301部であった。

（７）ペットの飼養管理

各種動物の実践的飼養管理方法をまとめた『ペットの飼養管理』（3,960円・税込・送料込み）を発行し、一般向けへ頒布しているほか、２級愛玩動物飼養管理士の副教材としても活用。今年度の販売数は60部であった。

（８）人と動物が共存する社会環境基盤整備

① 適正な飼育環境の整備

ペットの適正飼養を推進するためには住環境等の社会環境基盤整備を図ることも重要であることを踏まえ、愛玩動物飼養管理士教育の補完を図るために、ペット共生マンションなどの整備及び管理運営方法の適正化を推進するための『ペット共生

マンションの適正化推進ガイドライン』及び集合住宅向けの『飼い主のマナーハンドブック』の頒布や、ペット共生住宅の実現を目指す広がり（動き）を支援するための「ペットフレンドリーホーム宣言（人とペットの豊かな暮らし宣言）」の募集を行った。今年度の宣言団体は以下の10企業・団体となっている。

<宣言団体>

オンコ株式会社、アニコム損害保険株式会社、一般社団法人ペットライフデザイン協会、旭化成ホームズ株式会社、タマホーム株式会社、株式会社住宅工営、株式会社アパートマン、一般社団法人ペットインテリア協会、株式会社西武ペットケア、株式会社リビングライフ

② 適正な飼育環境整備のための知識の普及

『ペット共生マンションの適正化推進ガイドライン』、『飼い主のマナーハンドブック』、『ペット共生住宅管理士 理論と実践』の3冊をテキストとする「ペット共生住宅管理士」の検定試験においては、今年度における申込人数は166名、累計合格者は491名となっている。

③ ペットツーリズムにおける適正飼養の確保

ペット・ツーリズムにおける適正飼養の確保等を図るため、昨年度に引き続いて全国ペットツーリズム推進連絡協議会の事務局運営を行った。

（9）愛玩動物飼養管理士認定委員会・教材等

① 管理士教本の編集

愛玩動物看護師法の制定により「愛護・適正飼養学」が新設されたことを受け、愛玩動物飼養管理士教本においても、愛護・適正飼養学の学習内容を包含する教本へ改訂すべく作業を行った。完成は2022（令和4）年12月とし、2023（令和5）年度からの教本とした。

また、愛護・適正飼養学における「動物生活環境学」「ペット関連産業概論」「適正飼養指導論」の新規3科目は、愛玩動物を学ぶ上での履修科目として明確に存在していなかったものであるが、当協会は既に知見を有している領域であったため、即時に別冊にまとめ、特に養成所の看護師科の教科書にもなりえる便益があるため、2022年度のスクールの生徒に対して先行頒布をした。また、この別冊の内容については、2023（令和5）年度の教本に包含させた。

② 課題報告問題・認定試験問題の編集

最新版の認定試験問題集の中から、認定試験問題を選定。また、2023（令和5）年度教本の内容に合わせて、課題報告問題と認定試験問題の新規作成や、見直し作業を行った。

③ スクーリングスライドの編集

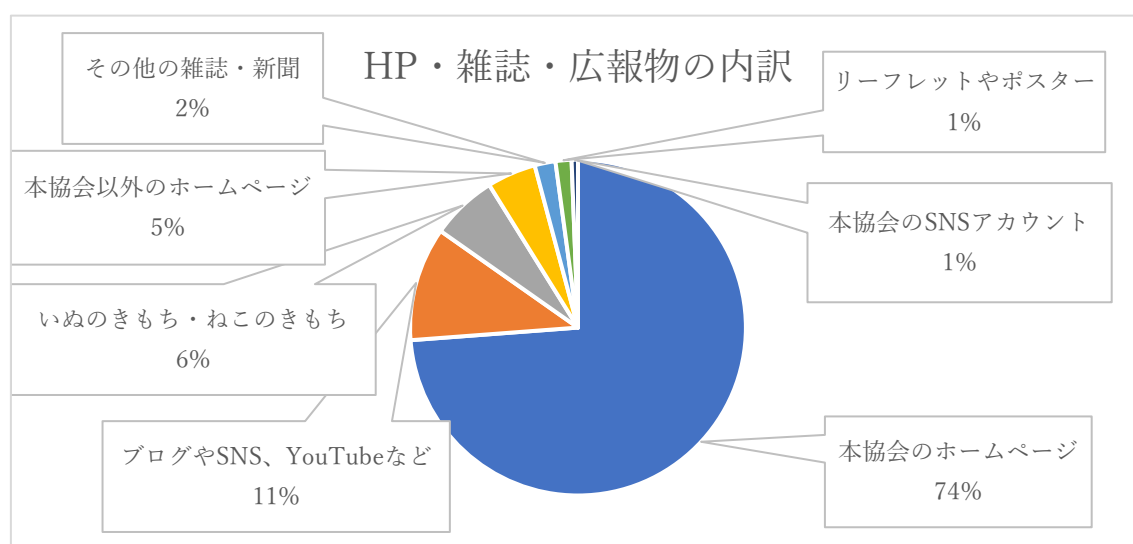
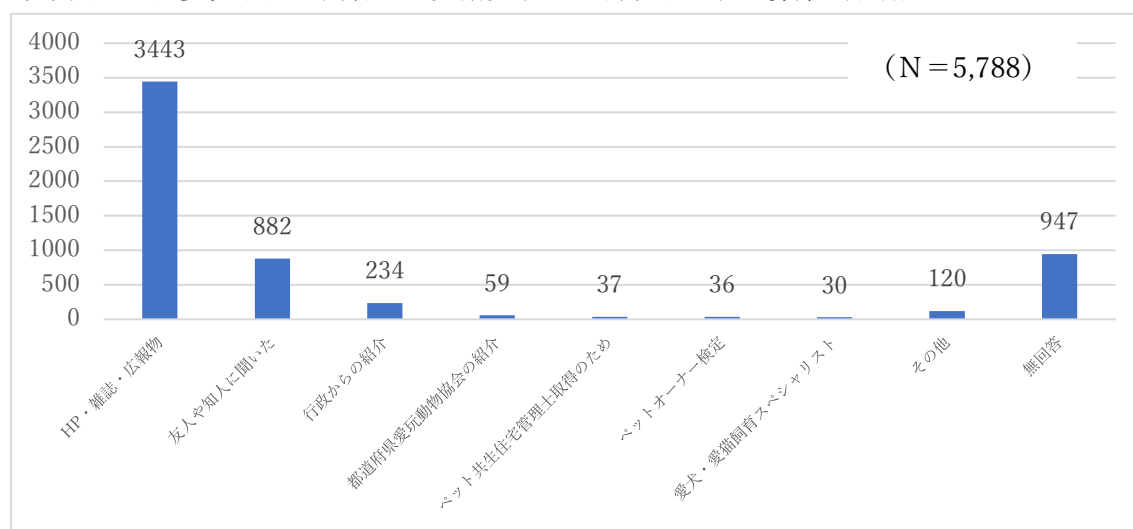
大幅に改訂する 2023（令和5）年度教本に合わせて、スクーリングスライド（デジタル）の見直しと、ナレーション音声の収録作業を行った。

（10）愛玩動物飼養管理士事業の広報

- ① 募集要項パンフレットを見やすく理解のしやすいデザインにするべく、一般用・スクール用共に見直しと改訂を行った。
- ② HP のコンテンツ改善とメンテナンスを適宜実行し、閲覧者に見やすく理解しやすいものに整備を行った。2022（令和4）年度は、約 25 万ユーザーからの訪問があり、約 86 万ページビューがあった。
- ③ 常時リスティング広告を行っており、検索ページにおいては概ね上位表示がされるような取り組みを行った。また、愛玩動物飼養管理士申込期間には、認知を拡大するためにディスプレイ広告・リターゲティング広告も実施した。
- ④ 公式インスタグラム、ツイッターからの情報発信により、当協会や愛玩動物飼養管理士の認知の拡大を図った。
- ⑤ アフィリエイト（インフルエンサー/ブロガーの紹介告知力を活用した成功報酬型広告）による広報を実施した。
- ⑥ リスティング広告や広告出稿先などの外部ウェブサイトからのリンク先に「ランディングページ（LP）」を設置。そこで「愛玩動物飼養管理士（受験）とは」を簡略に解りやすく説明し、且つそのままの流れで資料請求の手続きを可能としたことで、資料請求者数の増加を図った。
- ⑦ 従前の通信講座やスクールの紹介サイト「BrushUP 学び」「ベスト進学ネット」での広報を行った。
- ⑧ 企業とのタイアップ広報として、企業内会員に向けた広報に管理士等の紹介。また、著名ペット雑誌を発行する会社と管理士のパブリシティーを組込むことで、管理士の認知力の向上と実際の申込を促進させた。
- ⑨ 広報のフィールドが書籍（雑誌・新聞）からインターネット上に傾倒が著しい事実があるが、若干の有力ペット雑誌と新聞へ広報活動を行った。

【参考】

今年度の２級愛玩動物飼養管理士受講受験への新規申込者の募集要項請求のきっかけ



(11) 上級愛玩動物飼養管理士の認定

ペットの適正飼養の普及啓発に関する実践的な活動の成果を顕彰（評価）するため、更新（第２期及び第５期）１０名と新規（第８期）２名の合計１２名を、上級愛玩動物飼養管理士に認定した。

（令和５年３月３１日現在での上級愛玩動物飼養管理士数 ９４名）

1-3 調査研究及び情報の収集、提供

閲覧室の蔵書の収集と提供

各種文献・学術論文等の収集と提供を行った。

1-4 相談会、講習会、講演会、展示会及び調査研究発表会等の開催

(1) 電話やメールによるペット飼養相談の受付

電話やメールなどによるペット飼養に関する相談への対応を行った。

(2) 第42回全国ペット写真コンテストの開催

人とペットとのふれあいの楽しさ、動物愛護の心などが表されている写真を通じて、写す側、鑑賞する側双方の動物愛護精神の涵養を図ることを目的として、一般公募方式により「第42回全国ペット写真コンテスト」を実施した。また、昨年度に引き続いて、Instagramによる応募も受け付けを開始した。

環境省、（一社）ジャパンケネルクラブ、（一社）ペットフード協会の後援のもとで実施し、338点の応募作品（応募者数208名）より14点の入賞作品が審査会において選出された。

上位入賞者の表彰は9月24日（土）に動物愛護週間中央行事屋内行事（オンライン配信）において行い、受賞者には、賞状及び副賞として賞金、入賞作品をプリントしたパネルを送付した。また、入賞作品は、屋内行事会場および屋外行事会場に展示する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

賞 名	タイトル	受賞者名 (敬称略)
ペット大賞・環境大臣賞	どっちも長生きしてね	山田 美羽
推選（ジャパンケネルクラブ賞）	花輪もお揃い	福井 真実
推選（ペットフード協会賞）	もふもふで好き好き光 線が止まらない！！	天野 雅郎
推選（日本愛玩動物協会賞）	天使とのんびり	村上 留美

なお、過去の入賞作品パネルについては、全国の動物愛護週間行事で展示される等の活用が図られた。展示先は次のとおりである。

・鹿児島県、郡山市

1-5 調査研究活動への助成

2022 年度助成対象者（計 3 件、155 万円）への助成を行った。

研究名	氏名	所属	金額
動物医療における抗がん剤曝露に関する意識調査と曝露リスク評価	田川 道人	岡山理科大学	50 万円
地域猫活動における糞尿被害減少へ取り組みに関する研究－ネコ用公衆トイレが地域猫の行動に及ぼす影響－	妹尾 あいら	広島大学大学院統合生命科学研究科	65 万円
ペット飼育者および飼育経験のない人の人獣共通感染症の認知度およびリスク管理に関する調査	生野 佐織	日本獣医生命科学大学	40 万円

1-6 機関誌等図書印刷物の刊行

（1）機関誌『愛玩動物 with PETs』の発行

機関誌（隔月発行）を作成して会員に配布するとともに、関係自治体や全国の図書館への寄贈を行った。なお、各号の特集テーマは次のとおりである。

号	テーマ
285 号（5 月号）	愛玩動物飼養管理士の継続学習 ～社会の動きに応じて変わる学習内容～
286 号（7 月号）	マイクロチップの装着と登録の義務化がスタート
287 号（9 月号）	ペットの口腔ケア
288 号（11 月号）	飼い主のための災害時対策と「自助」
289 号（1 月号）	江戸時代のペットたち
290 号（3 月号）	日本の動物愛護関連団体の変化と広がり

（2）啓発パンフレット等の頒布による啓発

新型コロナウイルス（COVID-19）禍にあったことから、催事等の開催が少なく頒布数は限定的になったが、次のとおりのパンフレット等を頒布し啓発をした。

種別	部数（約）
リーフレット	10000 部

種別	部数（約）
人と動物の防災を考えよう	1880 部
いざという時のために ペットが被災したら	1780 部
被災ペットの救護活動ガイドラインーボランティア活動をされる皆様へー	380 部
○×クイズ 緑（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	400 部
○×クイズ 青（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	100 部
○×クイズ オレンジ（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	200 部
○×クイズ 黄（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	700 部

1-7 会員

会員の新規募集及び継続入会の呼びかけを行い、3月31日現在の一般会員数は、個人会員が13,455人（昨年度末より664人増加）、団体会員が16団体（昨年度より9団体減少）であった。

なお、会員特典は次のとおりである。

概要	協力企業等
書籍の割引販売	株式会社エデュワードプレス
もういちど学ぼうプロジェクトの割引受講	本協会
トリミング・ペットホテル料金の割引	株式会社西武ペットケア
「休暇村」の本館、コテージ、キャンプ場利用料の割引	休暇村協会
全国のプリンスホテルの施設（ホテル・ゴルフ場・スキー場など）の優待利用	プリンスホテル
年会費の税額控除	内閣府
富士急行株式会社関連施設利用料の割引	富士急行株式会社
フローリングへのペット用滑り止めコーティングサービスの割引	株式会社ナック

1-8 寄付金

協会のホームページ等を利用した寄付金募集を実施した。
当年度の寄付金は168,000 円であった。

1-9 認定連携団体（各都道府県愛玩動物協会）等の各種プロジェクト活動への支援

（1）認定連携団体（各都道府県愛玩動物協会）

認定連携団体の活動への支援を以下のように実施した。

なお、昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での行事の開催を自粛し、オンラインを中心とした活動を要請した。

団体名	所在地	分野	支援金額
全国※21 都道府県認定連携団体	全国 21 都道府県	定款第4条に定める事業の一部を都道府県単位で展開	2,722,019 円

※21 認定連携団体の認定状況

2023 年（令和 5）年 3 月 31 日時点

ブロック	認定連携団体のある都道府県
北海道・東北（3）	北海道、青森県、秋田県
関東（5）	茨城県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県
中部（3）	富山県、長野県、愛知県、
近畿（4）	三重県、大阪府、奈良県、和歌山県
中国・四国（2）	鳥取県、高知県
九州・沖縄（4）	長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計： 6 ブロック／21 団体	

また、以下の支援も行った。

① 認定連携団体代表者会議

2022 年 12 月 13 日（火）にオンラインによる会議を実施し、17 団体が出席した。また、外部講師による「オンライン活動について」の勉強会、事務連絡と意見交換を行った。

② 協力会員のボランティア保険への加入手続き代行

代表の申請に基づき、今年度に活動が見込める協力会員 335 名の加入手続きを代行した。

③ 協力会員の募集と登録・管理の業務を代行した。

(2) その他の団体

次のとおり、支援対象事業を決定し、支援を行った。

団体名	所在地	分野	支援金額
和歌山県愛護教室プロジェクト	和歌山県海南市	飼い主教育・公衆衛生・災害時対策・ペットとのふれあい・その他	280,163 円
一般社団法人マナー二	東京都港区	ペットとのふれあい	298,767 円

2. その他本協会の事業目的を達成するために行った事項

(1) 関係団体との情報交換等の実施

関係団体と適正飼養の普及啓発事業に関する情報の交換を行った。

(2) 「第 34 回日本動物児童文学賞」への審査協力

(公社) 日本獣医師会が、次代を担う子どもたちのために人と動物の共生等を扱った文学作品を世に送り出すことを目的に設置した児童文学賞に対して、本協会から役員が審査員として協力をした。審査結果は、毎年動物愛護週間行事として開催される中央行事の屋内行事で発表。

(3) 協会の理事及び職員が関係する外部会議及び行事

会議等の名称	関係者・出席者
東京都動物愛護管理審議会	協会本部役員
動物愛護週間中央行事実行委員会	協会本部役員・職員
東京都動物愛護推進協議会	協会本部役員
自民党どうぶつ愛護議員連盟総会	協会本部役員

会議等の名称	関係者・出席者
(公社) 日本獣医師会総会	協会本部役員
家庭動物飼育環境健全化検討委員会	協会本部役員
動物 ID 普及推進会議 (AIPO)	協会本部役員
日本動物児童文学賞審査委員会	協会本部役員
(公社) 日本獣医師会 動物感謝デー企画検討委員会	協会本部役員
関係各党・団体の各種意見交換会	協会本部役員
各指定校の評議員会等	協会本部役員
環境省中央環境審議会動物愛護部会	協会本部役員
指定登録機関個別 Web システムに設定する犬及び猫の品種・被毛案に係る検討会	協会本部役員
ヒトと動物の関係学会	協会本部役員
マスコミ取材対応等	協会本部役員・職員

(4) 各種行事への後援・協力等

名称	開催時期	開催地	主催
インターペット 2022 ～人とペット の豊かな暮らしフェ ア～	3 月 31 日～4 月 3 日	東京都	一般社団法人ペット フード協会、一般社 団法人日本ペット用 品工業会、メッセフ ランクフルト ジャ パン株式会社
第 84 回チャボ全国 品評会	5 月 14 日	オンライン	全日本チャボ保存協 会
JAHA 年次大会 2022・オンライン	6 月 19 日～20 日	オンライン	公益社団法人日本動 物病院協会
WJVF ONLINE 第 13 回大会	7 月 8 日～8 月 14 日	オンライン	公益社団法人日本動 物病院協会、一般社 団法人日本臨床獣医 学フォーラム
動物愛護フェスティ バル 2022 インこも ろ	9 月 23 日	長野県	動物愛護フェスティ バル 2022 インこも ろ実行委員会（長野

			県動物愛護協会、長野県、小諸市、一般社団法人長野県獣医師会)
2022 年度沖縄県動物愛護週間	9 月 20 日～26 日	沖縄県	沖縄県
第 5 回ペットインテリア展・ペットサローネ	10 月 26 日～28 日	東京都	一般社団法人アジア家具フォーラム
ほりかわ祭 2022	10 月 29 日	京都府	学校法人京都中央学院
動物介在プログラム基礎講習	11 月 19 日～20 日	オンライン	一般社団法人 優良家庭犬普及協会
ちよだ猫まつり 2023	2 月 18 日～19 日	東京都	一般財団法人ちよだニャンとなる会
軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト	2022 年度の活動に対する名義協力	長野県	一般社団法人軽井沢観光協会

(5) 内閣府による定期立ち入り検査

11 月 10 日(木)に実施され、法令違反等に関係するような指摘事項は無く終了した。なお、公益認定申請書において、上級愛玩動物飼養管理士の事業についての記載に若干の表現不足があったことから、「上級」という文言を追記する等の届出を行った。

3. 組織、会員、会議等

3-1 組織

— 2023(令和5)年3月31日時点 —

(1) 役員

(※＝常勤)

役員 (13名)	代表理事(1名)	会 長	東海林克彦(※)
	業務執行理事 (4名)	副会長	安部正弘、平山淳
		常務理事	水口修(※)、武田和彦
	理事(6名)		浅野明子、荒井延明、池田毅、石島力、 対馬美香子、光永謙太郎
	監事(2名)		藤澤省二、岡崎留美

(2) 相談役、顧問

相談役(1名)	椎野雅博
顧問(6名)	臼井玲子、斉藤久美子、大島誠之助、畠山 雅子、福田真由美、山田広美

(3) 委員会

① 愛玩動物飼養管理士認定委員会委員

委員長 林谷秀樹

委 員 荒井延明、臼井玲子、宇山理奈、大野瑞絵、谷田創、対馬美香子、
中嶋建介、長嶺隆、藤井仁美、宮村美帆、山崎恵子、若生謙二

② 実践の飼育方法教育委員会委員

委員長 林谷秀樹

委 員 臼井玲子、藤井仁美

③ 調査研究助成委員会委員 (委員名は非公開)

(4) 事務局役職員数

(単位：人)

区 分	年度当初	増 加	減 少	年度末
役員（常勤）	2	0	0	2
職員	6	0	0	6
計	8	0	0	8

その他の職員

派遣職員	3	1	1	3
------	---	---	---	---

3-2 会員数

単位：人・団体数

会員数		2022 年度末	2021 年度末
正会員	個人	57	64
	団体	22	5
個人一般会員		13,455	12,791
団体一般会員		16	25
名誉会員		0	0

3-3 会議の開催状況

① 社員総会

会議名	開催日	審議事項
第 13 回定時社員総会	6 月 9 日（木）	2021（令和 3）年度事業報告の件、2021（令和 3）年度貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録の件、理事 11 名及び監事 2 名の選任の件

② 理事会

会議名	開催日	審議事項
第 1 回定例理事会	4 月 28 日（木）	令和 3 年度事業報告、決算及び監査報告について、理事及び監事の選任について、役員

会議名	開催日	審議事項
		報酬について、行政への協力・支援、愛玩動物飼養管理士の生涯教育の推進について、総会の開催について、業務執行報告について
第2回臨時理事会	6月9日（木）	総会の議事運営について
第3回定例理事会	6月9日（木）	役職理事の選任について、認定委員等の選任について、上級愛玩動物飼養管理士の認定について
第4回定例理事会	10月25日（火）	上半期の事業報告及び決算報告について、）連携団体の代表者会議について、内閣府の定期立ち入り検査について、資産取得資金の変更等について、理事に対する業務依頼について、認定委員の追加選任について、愛玩動物飼養管理士認定細則改正について、顧問の退任について、理事の職務権限規程に基づく代行順序の決定について、業務執行報告、寄付金について
第5回定例理事会	1月24日（火）	愛玩動物飼養管理士認定試験の合否判定について（追認）、調査研究助成について、愛玩動物飼養管理士教本等の改訂について、内閣府の定期立ち入り検査について、公益認定申請内容の変更届け出について、国及び地方自治体への協力事業について、規程の改正について、連携団体の全国代表者会議について

会議名	開催日	審議事項
第 6 回定例理事会	3 月 14 日（火）	愛玩動物飼養管理士認定試験（2 月）の合否判定について（追認）、連携団体の認定及び適正飼養推進プロジェクト支援について、令和 5 年度予算及び事業計画について（資金調達及び設備投資の見込みを含む）、令和 5 年度定期社員総会の開催について、各種規程の改正について

③ 業務執行理事会

会議名	開催日	審議事項
第 1 回業務執行理事会	4 月 21 日（木）	令和 3 年度事業報告、決算及び監査報告について、連携団体不在の地元行政への協力と支援の推進方策について、連携団体におけるイベント協賛金の取扱いについて、管理士資格取得者の生涯教育の推進について、業務執行報告について、総会の開催について、役員報酬について、第 1 回理事会（4 月 28 日）の議事について、受講受験の申し込み状況
第 2 回業務執行理事会	6 月 2 日（木）	定期総会の開催について、コロナ禍に伴う連携団体の活動制限の取扱いについて、夏季の賞与について、上級愛玩動物飼養管理士の審査について、2022（令和 4）年度第 2 回理事会の議事次第について
第 3 回業務執行理事会	6 月 9 日（木）	総会について、理事会の開催について

会議名	開催日	審議事項
第 4 回業務執行理事会	8 月 4 日（木）	連携団体のブロック会議と全国代表者会議について、内閣府の定期立ち入り検査について、国及び地方自治体への協力事業と管理士生涯学習事業について、当協会の教育理念に有益な学会への協会賞の創設について、2022（令和 4）年度第 4 回理事会の日程調整、他
第 5 回業務執行理事会	9 月 15 日（木）	連携団体の全国代表者会議について、内閣府の定期立ち入り検査について、国及び地方自治体への協力事業と管理士の補完継続学習事業について、2022（令和 4）年度第 4 回理事会の議題について、調査研究活動助成事業について、北村先生の顧問の退任、宇山さんの認定委員への追加選任、規程の廃止、寄付金について、給与に関する物価上昇への対応
第 6 回業務執行理事会	10 月 18 日（火）	上半期の事業報告及び決算報告について、連携団体の代表者会議について、内閣府の定期立ち入り検査について、資産取得資金の変更等について、国及び地方自治体への協力事業と管理士の補完継続学習事業について、機関誌へ寄稿募集について、愛玩動物飼養管理士認定細則の改正について、理事の職務権限規程 第 10 条（職務の執行順序）と

会議名	開催日	審議事項
		業務執行報告の確認、2022（令和4）年度第4回理事会の議題について
第7回業務執行理事会	11月22日（火）	内閣府の定期立ち入り検査について、12月の賞与について、国及び地方自治体への協力事業について、連携団体の代表者会議について、各種文献資料の収集について
第8回業務執行理事会	12月20日（火）	公益認定申請内容の変更届け出について、国及び地方自治体への協力事業について、資産取得資金の変更等について、上級愛玩動物飼養管理士認定基準の改正について、愛玩動物飼養管理士認定規則の改正について、連携団体の代表者会議について、理事会（1月）の議事について
第9回業務執行理事会	1月17日（火）	国及び地方自治体への協力について、資産取得資金の変更等について、内閣府の立入検査の対応状況、理事会（1月）の議事について
第10回業務執行理事会	2月21日（火）	国及び地方自治体への協力事業について、資産取得資金規程の改正について、連携団体の認定及び適正飼養推進プロジェクト支援について、連携団体の認定規程の改正等について、上級管理士の実績記録簿について、令和5年度予算及び事業計画について、令和5年度定期社員総会の開催について、物価高騰からする昇

会議名	開催日	審議事項
		給について、理事会（３月）の議事について、大阪万博について
第 11 回業務執行理事会	3 月 30 日（木）	国及び地方自治体への協力事業について、定款の改正について、新型コロナウイルスの「５類」移行に伴う諸対応について

④ 各種委員会

委員会名	開催日	審議事項
第 1 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	6 月 8 日（火）	2023（令和 5）年度の愛玩動物飼養管理士教本について、2023（令和 5）年度の課題報告問題及び認定試験問題の点検と新規作成について
第 2 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	12 月 1 日（木）	認定試験（1 1 月）の合格者の決定について、2023 年度教材の進捗状況についての報告
第 1 回調査研究助成委員会	12 月 6 日（月）	2021（令和 3）年度助成対象者結果報告、2023（令和 5）年度調査研究助成申請者審査会
第 3 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	2023 年 3 月 2 日（木）	認定試験（2 月）の合格者の決定について、2024 年度に向けた教本の点検作業について

Ⅲ 事業報告の付属明細書

2022（令和4）年度の事業報告の付属明細書は、補足すべき重要な事項がないことから、作成をしていない。

以上